

第23回

# 電気接点国際会議

兼 IS-EMD2006

平成18年6月6～9日

仙台国際センター

## 論文募集



ICEC2006/仙台

日本

ICEC2006 仙台

第23回接点国際会議は、平成18年6月6～9日に、仙台市仙台国際センターで開催されます。

第1回接点国際会議は、1961年に、Ragnar Holm博士、R. E. Armington教授らにより組織され、メイン大学で開催されました。日本でも、これまでに2回開催されております。

本国際会議の目的は、電気接点と関連する分野における最新の成果と課題についての紹介と情報交換のための場を提供することであります。また、世界の多くの国から研究者、技術者の科学的ならびに技術的情報を交換することももう一つの本会議の趣旨であります。

これまでも、この分野の発展と、国際的な交流に大きな貢献をしております。

### 対象となる技術分野と課題

#### 接点の基本現象

##### 静止接点

接触抵抗

フレッチング腐蝕

##### 開閉接点

アーク現象

アーク遮断

接点消耗と移転

溶着

##### 摺動接点

潤滑

摩擦

磨耗

##### 接点材料

金属と合金

メッキ

導電性ポリマ



接着剤  
鉛フリー半田  
新しい材料

### 試験と測定

寿命試験  
信頼性  
方法論

### 評価

モデリング  
シミュレーション

### 機構および接続デバイス

スイッチ  
遮断器(空気ならびに真空)  
パーマネントコンタクト  
コネクタ  
リレー  
リードスイッチとリードリレー  
小形モータ  
光コネクタとデバイス

### マイクロ機構部品

マイクロスイッチ  
ナノプローブ  
微小溶着

### 相互接続

通信  
広帯域信号伝送  
信号劣化  
電磁環境問題(EMC)

### 応用

自動車用電気／電子部品  
通信  
電力  
計測・センサ

### 新分野

## 日程

<b>アブストラクト締切り</b>	<b>平成 17 年 11 月 15 日</b>
アブストラクト採否の通知	平成 18 年 1 月 31 日
完成原稿の締切り	平成 18 年 3 月 15 日
会議の開始	平成 18 年 6 月 6 日

## 会議について

公式言語：英語

参加費： 50,000 円

(学生の参加には割引が適用されます。)

## 会議事務局の住所

### ICEC2006/仙台 事務局

c/o 秋田大学井上研究室,

秋田, 010-8502, JAPAN

Tel: +81-(0)18-889-2491, Fax: +81-(0)18-835-4651

E-mail: [icec2006@venus.ee.akita-u.ac.jp](mailto:icec2006@venus.ee.akita-u.ac.jp)

Homepage: <http://www.iece.org/icec2006/>

## 共催・協賛

主催; 電子情報通信学会エレクトロニクスソサイティ  
(IEICE-ES)

共催; 継電器・コンタクトテクノロジー研究会  
(RES-ECCT)

協賛(交渉中): 電気学会、日本トライボロジー学会、表面  
技術協会、その他。

## アブストラクト投稿

発表予定の方は、英語のアブストラクト(最大 200 語)  
を、**word** あるいは **pdf** ファイルで論文委員会

([sawa@sd.keio.ac.jp](mailto:sawa@sd.keio.ac.jp)) まで、**平成 17 年 11 月 15 日**

までにお送りください。アブストラクトには、題目、  
連絡者およびその他の著者のお名前、所属、住所、メ  
ールアドレス、電話および FAX 番号を記載ください。

著者への採否の連絡は、平成 18 年 1 月 31 日までにい  
たします。アブストラクトに、著者連絡先などのすべ  
ての情報が含まれていない場合には査読されません。

なお、電子情報通信学会英文誌 **selected paper** 特集  
号を通常の査読基準により、企画しております。

### Advisory Group for ICEC

Austria Werner Rieder

Canada Roland Timsit

China J. G Zhang

France N. Ben Jemaa

Germany Thomas J. Schoepf

Japan Tasuku Takagi

Netherlands A. Steinmetz

Norway Magne Runde

Poland Eugeniusz Walczuck

Sweden C. Leygraf

Switzerland Werner Johler

United Kingdom J. B. P. Williamason

USA Paul G. Slade

Honorary members : J. Kulsetas (Norway)

### 国内委員会各委員長

組織委員会：高木 相 (東北文化学園大学),

運営委員会：井上 浩 (秋田大学),

玉井 輝雄 (兵庫教育大学),

運営幹事会：谷口 正成 (東北文化学園大学),

論文委員会：澤 孝一郎 (慶應義塾大学),

財務委員会：青木 武 (田中貴金属工業),

広報・渉外委員会：若月 昇 (石巻専修大学),

会場委員会：曾根 秀昭 (東北大学)